

長野県下伊那地方の植物名方言 12

浅野 一 男

Kazuo Asano : Tables of common names of plants in Shimoina-gun, Nagano-ken.

シナノキ科 Tiliaceae

265. シナノキ *Tilia japonica* Simonkai

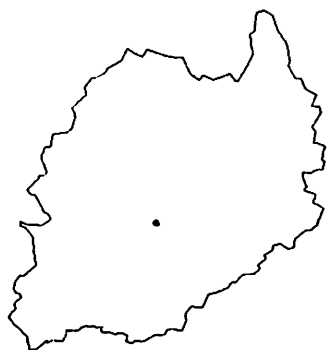


図152 シナノキ 方言名 アカソ
アカソ 秦阜村 (明島)。



図153 シナノキ 方言名 エイガ
エイガ 阿南町 (和合：田代)。



図154 シナノキ 方言名 エーガ

エーガ 阿南町 (旦開：砂田、栃洞、大村。和合：田代、上和合、和合上、寺村、日吉、木曾畑、鈴ヶ沢、心川。富草：粟野)、売木村 (南部第二)、天龍村 (神原：足瀬、大久那、中久那、中組、坂部、向方、峠山、的瀬、大河内、梨畑、太田)。



図155 シナノキ 方言名 エーガノキ
エーガノキ 阿南町 (旦開：砂田、栃洞、大村。和合：押の田、巾川、日吉、下日影)、売木村 (長下、旭、南部第二)、天龍村 (平岡：下山、鶯巣、大蛇。神原：福島、向方、足瀬、大久那、中久那、大河内、中河内、倉ノ平、中組、溝田、見遠、坂部)。

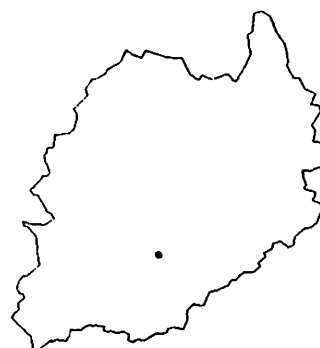


図156 シナノキ 方言名 カラムシ
カラムシ 秦阜村 (温田)。
シナ 阿智村 (会地：伝馬町。伍和：丸山、日ノ入。智里：濃間、横川)、阿南町 (旦開：砂田。和合：上和合、巾川、日吉。大下条：深見)、飯田市 (伊賀良：大瀬木大森、三日市場中部、北方大井、下殿岡南部。鼎：上茶屋、切石。上久堅：平栗、小野子



図157 シナノキ 方言名 シナ

下、馬場垣外。龍江：中央。千代：大郡、野池。山本：山本北平)、売木村(南部第二)、大鹿村(釜沢、文満、中尾、下市場、河合、大栗、入沢井、深ヶ沢)、上郷町(棚田、飯沼南、北条、下黒田南)、上村(上町、上中郷)、清内路村(宮上、西上、土佐、洞根、石割、片草、平瀬、市場、登、中、清水)、喬木村(小川上平)、高森町(市田：出砂原、荒神前、清東、共経、中村。山吹：小沼)、天龍村(平岡：南、原、田村、岡本、北、中井侍、下山、上平。神原：峠山、戸口)、豊丘村(神稻：田村、福島、野田平、壬生沢)、浪合村(上町、上半堀、宮の原)、根羽村(市之瀬、莸野、浅間、黒地、小戸名、田島、上町、小川)、松川町(大島：大島上部。上片桐：大沢南部。生田：峠)南信濃村(和田：和田、夜川瀬、押出。木沢：木沢、上島、八名瀬。八重河内：本村、下市場、小嵐。南和田：名田熊、和見、十原)、泰阜村(田本)。

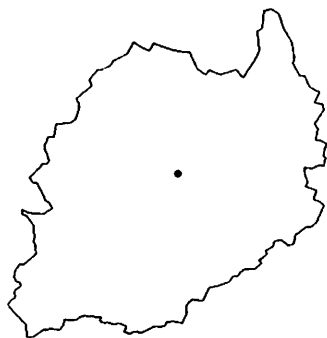


図158 シナノキ 方言名 シナッポ

シナッポ 飯田市(上久堅：平栗)。
シナノキ 阿智村(会地：中関、栄町、上町、伝馬町、木戸脇、大橋、曾山、七久里。伍和：寺尾、日ノ入、原の平、東栗矢、西栗矢、洞。智里：中野、中平、昼神、濃間、中央、戸沢、横川)、阿南町



図159 シナノキ 方言名 シナノキ

(旦開：栃洞、東町、原町、荒木。和合：田代、和合上、本村、巾川、宮沢、日吉、鈴ヶ沢、木曾畑。大下条：深見、大平、大森、川田。富草：新木田、門原、鷺巣、古城、雲雀沢、鴨目)、飯田市(飯田：大平。伊賀良：大瀬木宮の平、大瀬木大東、大瀬木鳥屋、大瀬木滝沢、三日月市場東部、三日月市場中部、北方能化、北方野池、北方西の原、北方育良、北方北部、下殿岡南部、中村上中、中村中平、上殿岡北部、上殿岡東部、梅ヶ久保。鼎：一色、切石、上山、下山。上久堅：堂平、大鹿、下平、上平、蛇沼、森。川路：四区、八区。座光寺：北市場。下久堅：小林、下虎岩。龍江：中原、中央、舟渡、宮沢、尾林。竜丘：長野原、時又、上川路、桐林、北平、南平。千代：下村、米川、野池、田力、大郡。三穂：西垣外、田中、下田、宮本、雄杉。山本：湯川、山本西平、大明神、山本東平、山本北平、山本中平、山本南平)、売木村(岩倉、南部第二)、大鹿村(塩河、落合、釜沢、北の原、中尾、北入、塩原、中峰、上市場、下市場、上青木)、上郷町(平林、柏原、南条、下黒田南、高陵)、上村(上町、下栗、下栗上区、上中郷、程野)、下条村(小松原、粒良脇、桃立、相田、北平、中原、中平、北又、新田、合原、入野、手塚原、鎮西、仁王関、原の平)、清内路村(上清内路、西下、堀中、登、石割、平瀬、中、市場、清水)、喬木村(富田、小川上平、氏乗)、高森町(市田：出砂原、北原、吉田河原、下市田河原、荒神前、共経、塚越、旭町、原、吉田。山吹：小沼、垣外、駒場、下平、竜の口)、天龍村(平岡：南、原、田村、余野、岡本、薬野、中井侍、下山、上平、鷺巣、宇連、折立、大蛇、長島宇連、長沼、途中、不当、松島。神原：福島、梨畑、足瀬、倉ノ平、坂部)、豊丘村(神稻：田村、福島、壬生沢、林、佐原、野田平。河野：堀越)、浪合村(恩田、宮本、上町、中下町、宮の原、治部坂、下半堀、上半堀)、根羽

村（取手、中野、横旗、折山、堂の入、老平、莢野、黒地、向黒地、田島、新井、檜原、大又入、日向、小栃、初入、月瀬平、大畑、上町、小川）、松川町（大島：名子、桑園。上片桐：清泉地第一、諏訪形、中荒町。生田：塩倉、柄山、長峰、峠）、南信濃村（和田：和田、大島、池口、夜川瀬、押出。木沢：下中根、上中根、八名瀬。八重河内：本村、下市場、昭和通。南和田：名田熊、十原）、泰阜村（稲伏戸、打沢、楯不取、万場、黒見、梨久保、漆平野、栃城、温田、左京、大畑、田本）。



図160 シナノキ 方言名 ヤイガ

ヤイガ 阿南町（旦開：砂田、栃洞、大村、川尻。和合：本村。大下条：和知野）、売木村（南部第二）、根羽村（下町）。



図161 シナノキ 方言名 ヤイガノキ

ヤイガノキ 阿智村（伍和：丸山）、阿南町（旦開：栃洞、川尻）、売木村（南部第二）、平谷村（中平）。ヤエガ 阿南町（旦開：砂田、栃洞、東町、大村、荒木、川尻。和合：日吉、鈴ヶ沢。大下条：和知野、平久、田上）、天龍村（平岡：小城、中井侍、途中。神原：梨畑、野竹、倉ノ平、向方、坂部）、根羽村（市之瀬、莢野、新井）、平谷村（新町）、南信濃村（和田：大島）。ヤエガワ 阿南町（旦開：砂田、栃洞、荒木。和合：



図162 シナノキ 方言名 ヤエガ



図163 シナノキ 方言名 ヤエガワ

木曾畑。大下条：平久、千木）、売木村（岩倉）、天龍村（平岡：上平、中井侍。神原：坂部、梨畑）、浪合村（中町）、根羽村（取手、新井）。

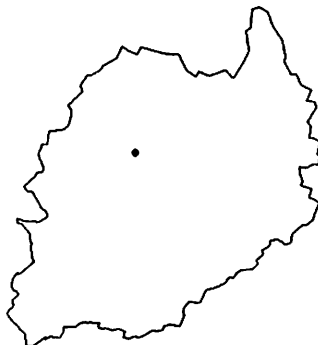


図164 シナノキ 方言名 ヤマシナ

ヤマシナ 飯田市（伊賀良：下殿岡東部）。ヤマジナ 飯田市（上久堅：中宮）、泰阜村（唐笠）。

【備考】 昔は山仕事用の背負い籠などを作った（阿南町旦開区砂田、金田悦雄氏）。

私も満州でシナノキの皮を利用した（阿南町旦開区大村、田島光雄氏）。

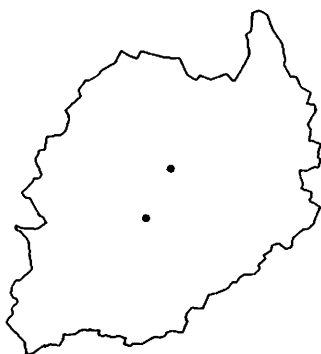


図165 シナノキ 方言名 ヤマジナ

〔新刊紹介〕河野昭一監修「フィールドウォッチング」全4巻。A4判。各巻110頁前後。1990～91年発刊，以下続刊。定価2,500円。北隆館。

植物図鑑の一種ともいえるが，従来のものとはかなり異なっている。従来，植物の説明は，乾燥標本の分析によるものがメインであったが，解説によると，最近の植物研究によって，植物をありのままの姿で捉え，その仕組みやふるまいの持つ意義を解明することにも努力がはられるようになってきた。その結果，植物が芽生え生長し，生命を次の世代に伝えるまでの過程を通じて，植物たちがいかに逞しく，いかに巧妙なプログラムのもとで生きぬいているのか，様々な視点から読みとれるようになった。これらの成果によって本書では，多様な植物が取り上げられており，現地で生きたままの植物に触れながら，その形態，生態，一生を観察できるようになっている。とくに従来の図鑑にない，多数のカラーイラストや写真を多用し，見ていだけでも楽しくなる。第1巻は，新緑の季節を歩く，2巻は，秋の野山を歩く，3巻は，早春の季節を歩く，4巻は，夏の野山を歩くとなっている。各巻には，2,30種の植物が取り上げられ，素晴らしい植物画が描かれている。第1巻の内容についてみると，1. 花と昆虫の協調，2. 性の転換をする植物たち，3. 野草たちの生活を探る，4. 雑草の生存競争，5. 他の生物を利用して生きる。となっている。私達は，植物を見る場合，従来えてして，形がどうの，他とどこが違うのといった見方が多かったが，最近の種生物学，進化生物学の研究の進歩によって，植物の生活や，生活史，また他の生物との関係の中でみる，すなわち生態学的見方を知るようになってきた。6月現在，第7巻まで発刊されており，さらに続刊，すなわち研究の発展を願いたい。（K. T.）

カラムシは本来イラクサ科の繊維植物、からむしの名である。

私の20歳頃、シナノキの皮を取って水に晒して繊維を取り、その繊維で肥桶の紐を作ったことがある（飯田市竜丘区北平、田中ハル二氏）。

〔新刊紹介〕岩槻邦男 編著「日本の野生植物 シダ」平凡社 刊，1992年，311頁，19,500円。

現在，シダ植物というのは種子を作らない維管束植物の寄せ集めであり，一つのまとまりの有る生物群ではないというのは常識になっているが，現在でも便宜的に種子を作らない維管束植物を一般的にシダ植物と呼ぶのが日本では通例になっている。この本では琉球・小笠原を含む日本に野生する“シダ”630種について解説されており，大部分の604種34変種の写真が掲載されている。これまで一般的なシダの図鑑としては田川図鑑があったが，出版されてからかなり時間が経ち，新しい知見が集積し，変更の必要な学名などもかなり多くなっていた。また，これまでの図鑑の通例で琉球や小笠原の種類についての記述や図が不十分であった。そのため，今回のシダ図鑑はシダの研究者や植物愛好家の間で出版が待望されていたものである。写真のなかに同定に疑問の残る写真も有るが，大部分の写真は鮮明で特徴が良く捉えられている。検索表や各種の記載も適切である。当分の間これからのシダ図鑑の中心になる本であるのは間違いがない。

日本の野生植物のこれまで出版された種子植物に関する本は複数の著者によって執筆されていたのに対し，シダ編は岩槻邦男氏単独で執筆されている。各グループの専門家が各自の専門のグループを分担執筆するのに比べ，一人の著者による単独執筆には一長一短がある。自分の専門外のグループに関してはやや突っ込みが少し甘くなるのはやむを得ないが，反面，すべてのグループの取り扱いのバランスが取れているという長所もある。また，通常の図鑑と少し異なり，シダ植物の生活環，形態，進化などシダ植物についての解説が40ページ程に簡潔にまとめられているのも役にたつと思われる。（K. I.）